

あいらん満杯 仕事が欲しい

大阪市西成区にあいらん地区(釜ヶ崎一帯)で、各地の造船、鉄鋼など不況産業の下請けからはじき出された労働者が急増している。仕事場のなくなった腕のある労働者が、関西新空港や花の万博などビッグプロジェクトを当て込んで流れ込むケースが増えたためらしい。しかし、求人は労働者増に追いつかず、十九日朝から、同市東区の大坂府庁前の大手前公園では、同地区の労働者たちが仕事を求めてハンガーストライキを始めた。長びく構造不況は、「最後の労働市場」といわれるあいらん地区にも大きな変化をもたらしている。

ハンストに入ったのは、釜ヶ崎日雇労働組合(山田実委員長のメンバー)や支援者。四月の仕事を少ないアプシ期の特別就労対策を求めている。二十三正午までの百時間ストを五人態勢で続け、うち三人は最

不造船・鉄鋼に追われ



アプシ手当受給に列をなす労働者たち—大阪市西成区萩之茶屋1丁目、あいらん総合センターで

労働者3年で1万人増 対策求めハンスト

後まで座り込む。支援の集会には、約五十人が参加した。同地区で労働者の増加が目立つようになったのは三年前から。あいらん職安が発行、同地区の労働者数の指標となる日雇労働被保険者手帳(白手帳)の所持者は五月末現在、二万四千四百七十一人。五十九年五月末に比べ二万人近く増え、同職安で始めて以来、最も多くなっている。一方、日雇い求人数は、昨年度までの三年間に三割増えたが、求職数はそれを上回る。アプシ手当受給者は今年一月五日、一万六千八百一十五人、五月六日、一万二千百十九人と、これまでの二、三位を記録。

同地区の労働者の生活実態などを調べている釜ヶ崎資料センター(代表・小柳伸顕牧師)は、このほど、五十八年以降の四年間に白手帳を取った百三十七人について聞き取り調査を実施。その結果①過半数(五三%)は、四二%を占め、うち六〇%は四、五十歳代だった②同地区にくる直前の職をみると、基幹の

先週の夜間学校ニュースに載せたのとはまったく反対の見出しと内容の記事が朝日新聞にのつた。さて、どちらがみんなの生活実

感に近いだろうか。記事中の聞き取り調査は、夜間学校が年末年始に六万回以後の仲間に協力をしてもらった

ておこなったもので、その結果については、すでに夜間学校ニュースでも何回かにわたって知らせたところである。

調査をおこなうにあたって、協力してもらった仲間には、仕事よこせの闘争のときなどに役立つものとして結果を使うつもりでいたが、これだけの結果の分くらいは果てたのではないかと、ホツと息づいていいる。

今後とも何かにつけて、世に訴えるのに役立つアンケートもおこないたいと考えている。

よろしく。